

# 株式会社椿本チエイン 2020年3月期 通期決算報告

## <アジェンダ>

説明内容	説明者	予定時間
・ 2020年3月期 通期決算報告	代表取締役社長 大原 靖	35分

2020年6月10日

---

---

# 2020年3月期 連結業績報告

---

---

# 1. 20年3月期比<sup>1)</sup> 連結決算ハイライト

2

## ■ 前期比で減収減益。

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	前期比	予想比 (10月31日公表)	
	通期実績	通期実績	増減率	予想値	増減率
売上高	238,515	226,423	▲5.1%	235,000	▲3.6%
営業利益	21,789	16,146	▲25.9%	16,100	0.3%
営業利益率	9.1%	7.1%		6.9%	
経常利益	21,621	16,698	▲22.8%	16,400	1.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	13,779	11,576	▲16.0%	11,700	▲1.1%
1株当たり当期純利益	364.03円	308.71円	—	—	—
(為替レート 1US\$)	110.93円	108.71円	—	—	—
(為替レート 1EURO)	128.45円	120.81円	—	—	—
(為替レート 1元)	16.70円	15.77円	—	—	—
	通期実績	通期実績			
自己資本比率	56.8%	59.3%	自己資本/総資産		
自己資本利益率(ROE)	8.1%	6.7%	当期純利益/期中平均自己資本		
ネット D/E レシオ	0.04	0.06	(有利子負債-現預金) / 自己資本		

## 2. 20年3月期比<sup>1)</sup> 事業セグメント別業績

3

- マテハンは増収増益も、チェーン、精機、自動車は減収減益。

(単位：百万円)

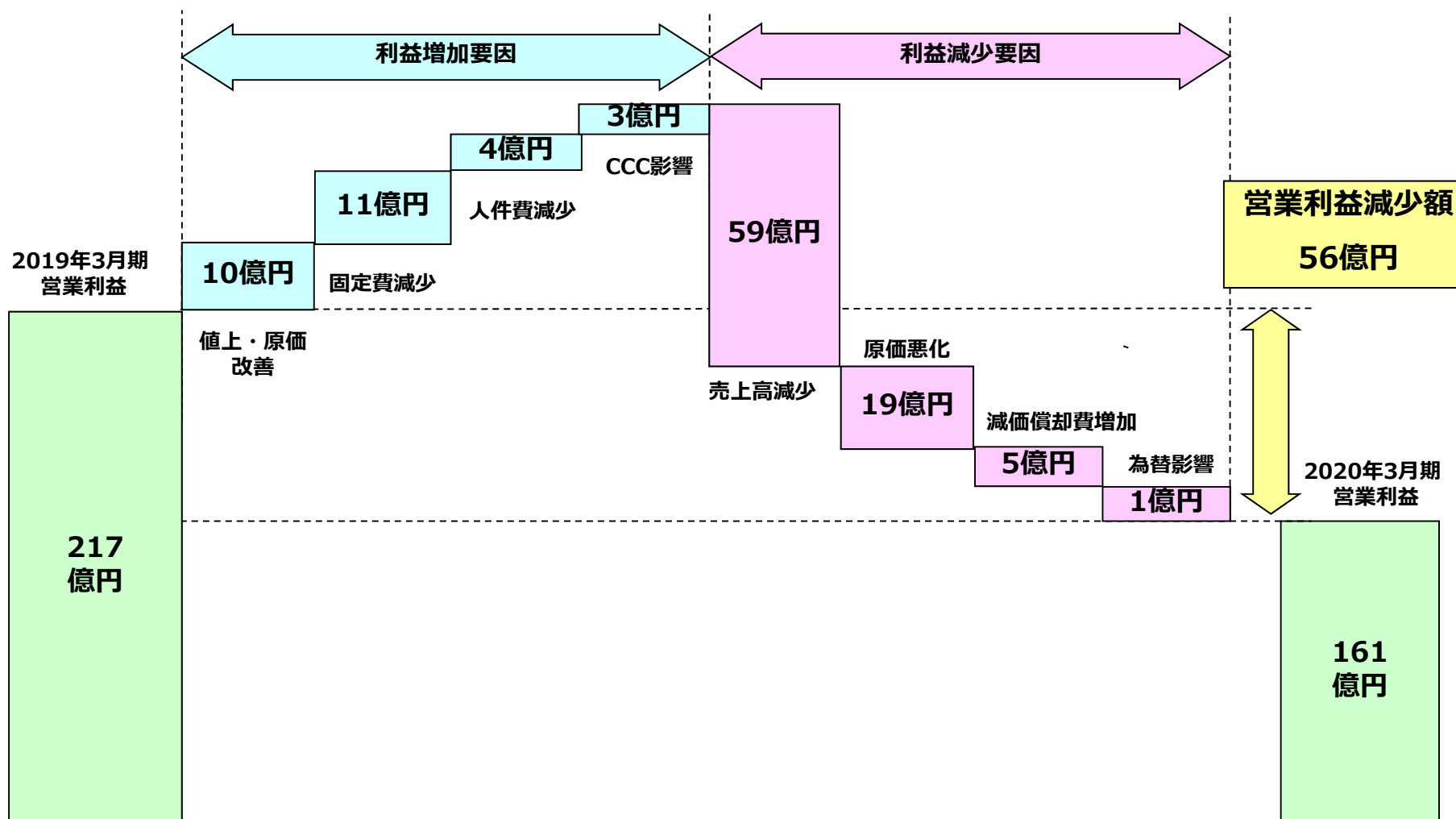
		2019年3月期	2020年3月期	前期比	予想比 (10月31日公表)	
		通期実績	通期実績	増減率	予想値	増減率
チェーン	売上高 <sup>※注1</sup>	72,023	67,526	▲ 6.2%	69,700	▲ 3.1%
	営業利益	10,292	8,406	▲ 18.3%	8,620	▲ 2.5%
	営業利益率	14.3%	12.4%		12.4%	
精機	売上高 <sup>※注1</sup>	25,591	23,813	▲ 6.9%	24,200	▲ 1.6%
	営業利益	3,340	2,189	▲ 34.5%	2,650	▲ 17.4%
	営業利益率	13.1%	9.2%		11.0%	
自動車部品	売上高 <sup>※注1</sup>	78,992	70,949	▲ 10.2%	73,700	▲ 3.7%
	営業利益	8,734	5,791	▲ 33.7%	4,930	17.5%
	営業利益率	11.1%	8.2%		6.7%	
マテハン	売上高 <sup>※注1</sup>	61,827	64,212	3.9%	67,500	▲ 4.9%
	営業利益	402	647	60.6%	930	▲ 30.4%
	営業利益率	0.7%	1.0%		1.4%	
その他 <sup>※注2</sup>	売上高 <sup>※注1</sup>	3,548	3,542	▲ 0.2%	3,500	1.2%
	営業利益	▲ 43	20	—	50	▲ 60.0%
	営業利益率	—	0.6%		1.4%	

※1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※2：「その他」は、報告セグメントではありません。

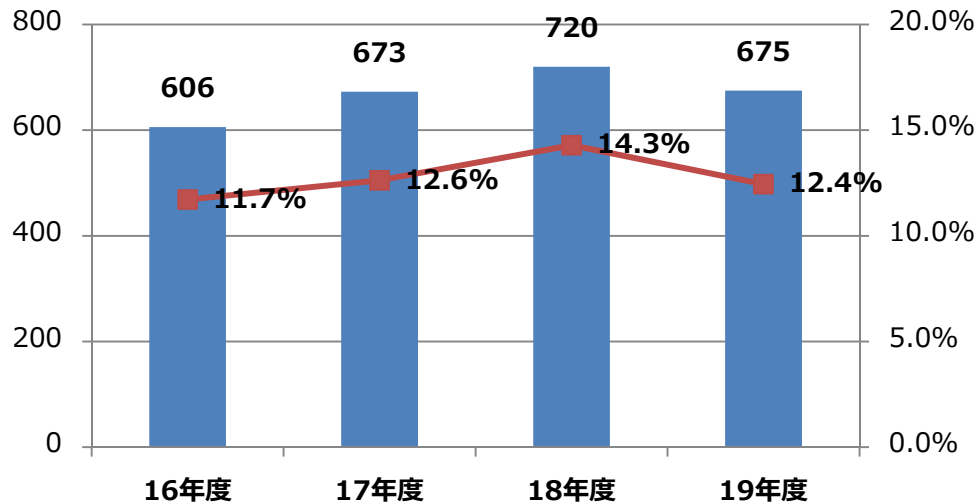
# 3. 連結營業利益増減要因分析

## ■ 2019年3月度実績 vs 2020年3月度実績

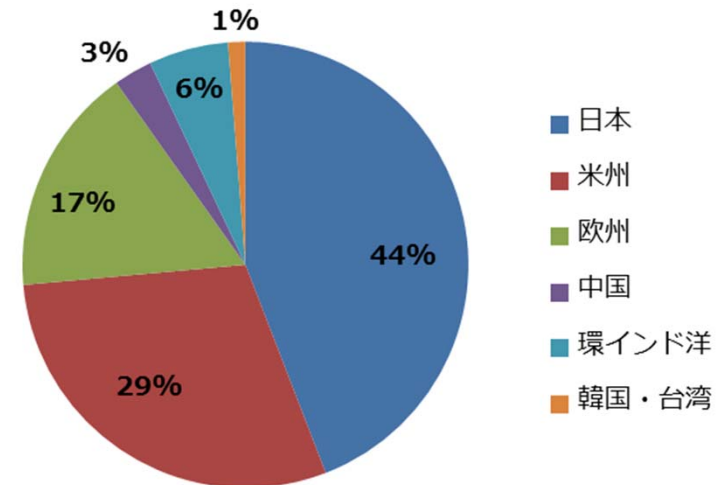


# 4. 20年3月期比<sup>1)</sup> 事業セグメント別業績 〈チェーン事業〉 5

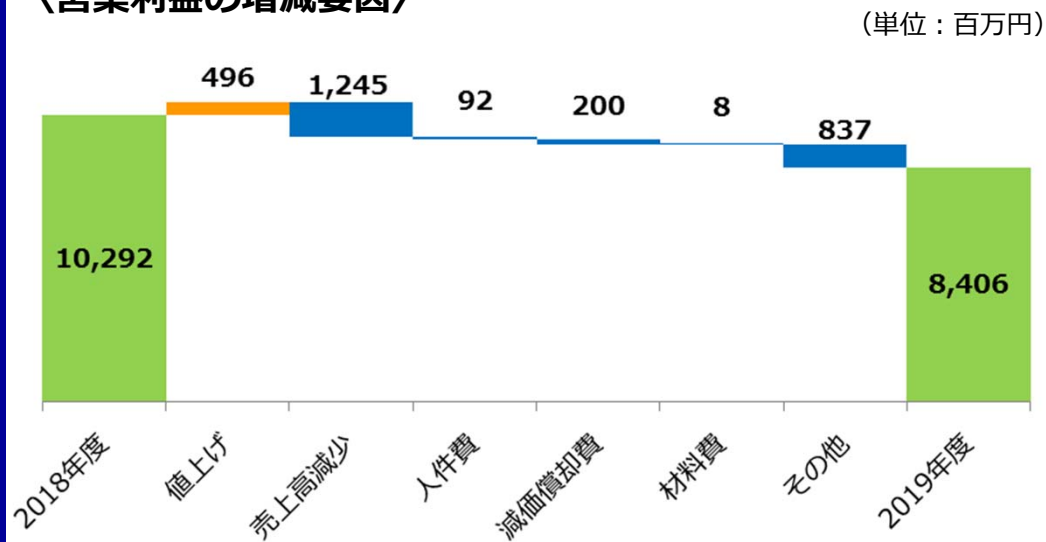
売上高・営業利益率の推移



売上高占有率 (所在地別)



〈営業利益の増減要因〉



- ・ 日本：コンベヤチェーンの販売好調も、その他の商品群で販売数量減により減収減益。
- ・ 米州：昨年度の受注販売好調による在庫調整の影響が響き減収減益。
- ・ 中国：為替影響により減収も、天津子会社の採算性改善により、増益。

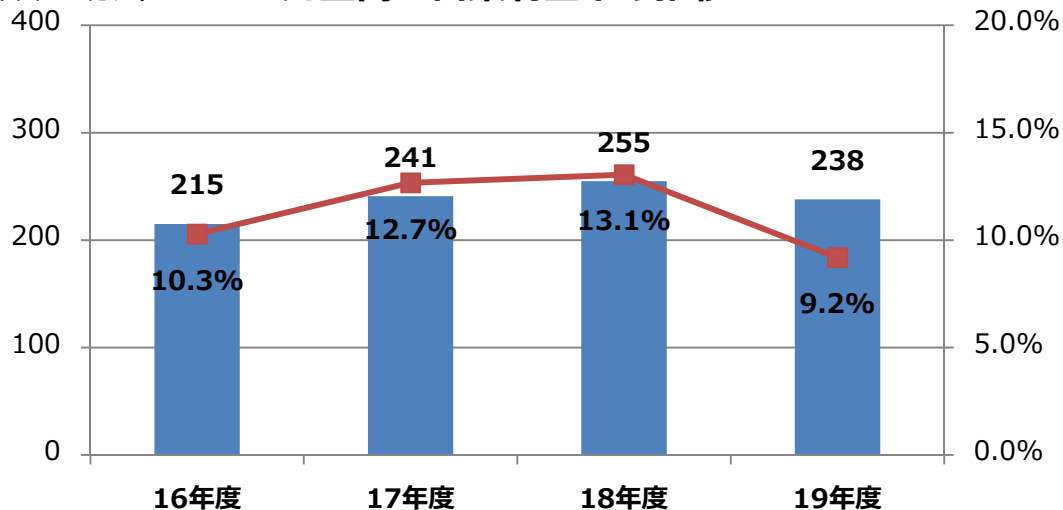
→全体として 減収・減益

# 4. 20年3月期比「1」- 事業セグメント別業績

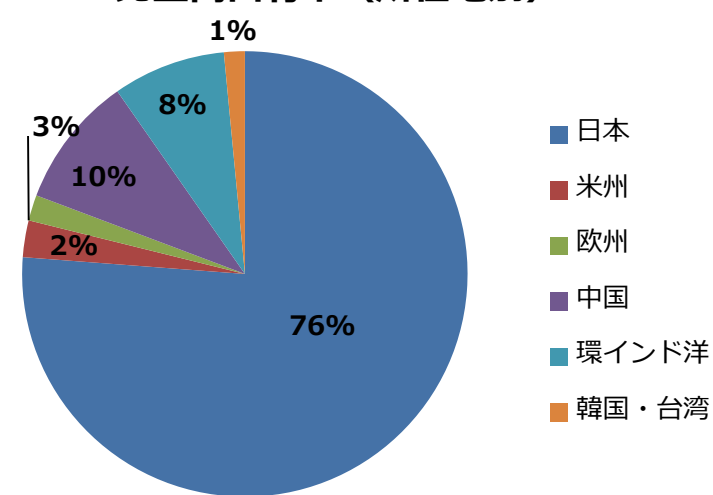
〈精機事業〉

(単位：億円)

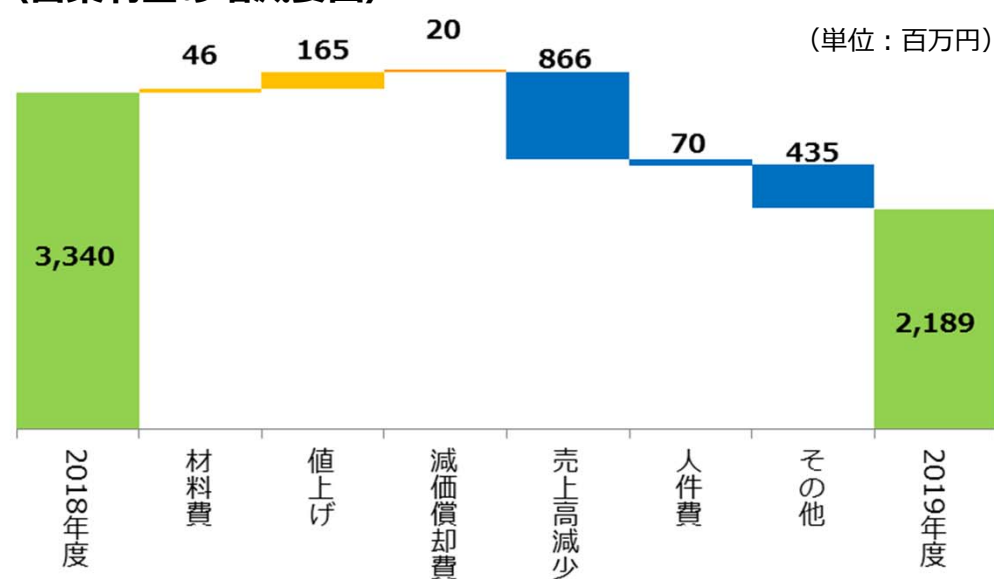
売上高・営業利益率の推移



売上高占有率 (所在地別)



〈営業利益の増減要因〉



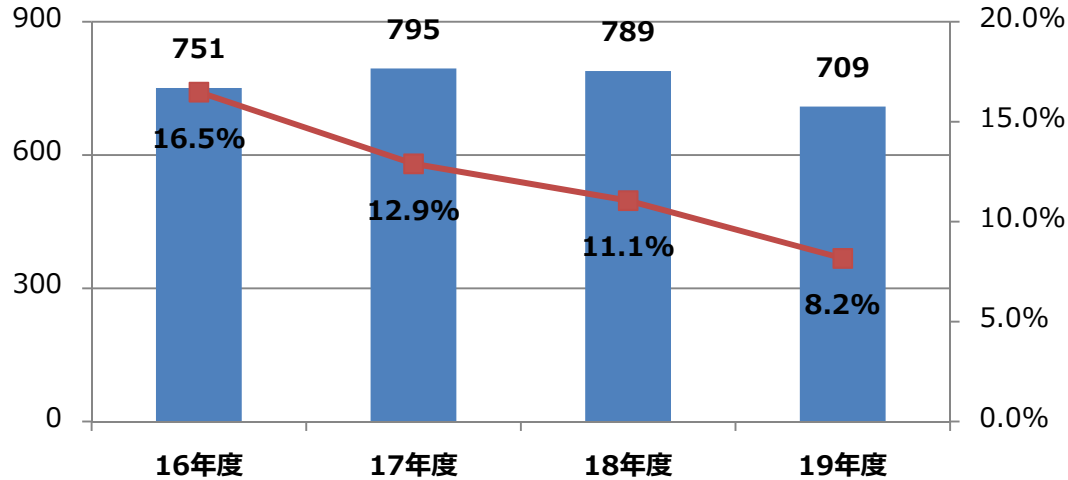
- ・日本：カムクラッチは販売堅調も、その他商品群で販売量減少により減収減益。
- ・環インド洋：インド向け自動2輪車用カムクラッチの販売低調により減収減益。

→全体として 減収・減益

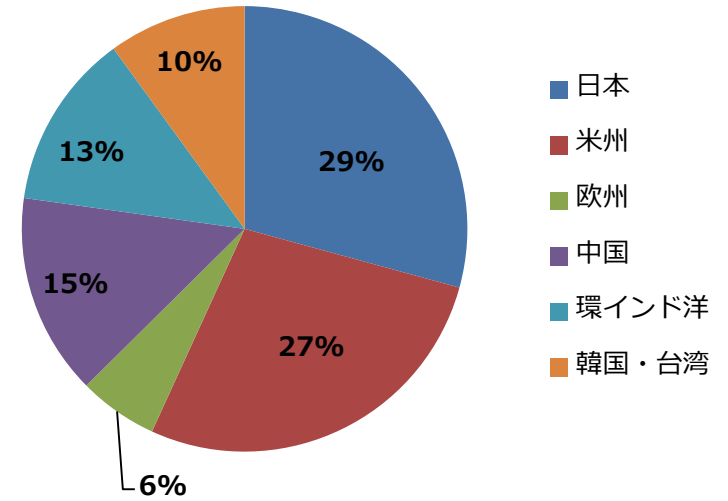
# 4. 20年3月期比<sup>1)</sup>- 事業セグメント別業績 〈自動車部品事業〉 7

(単位：億円)

売上高・営業利益率の推移

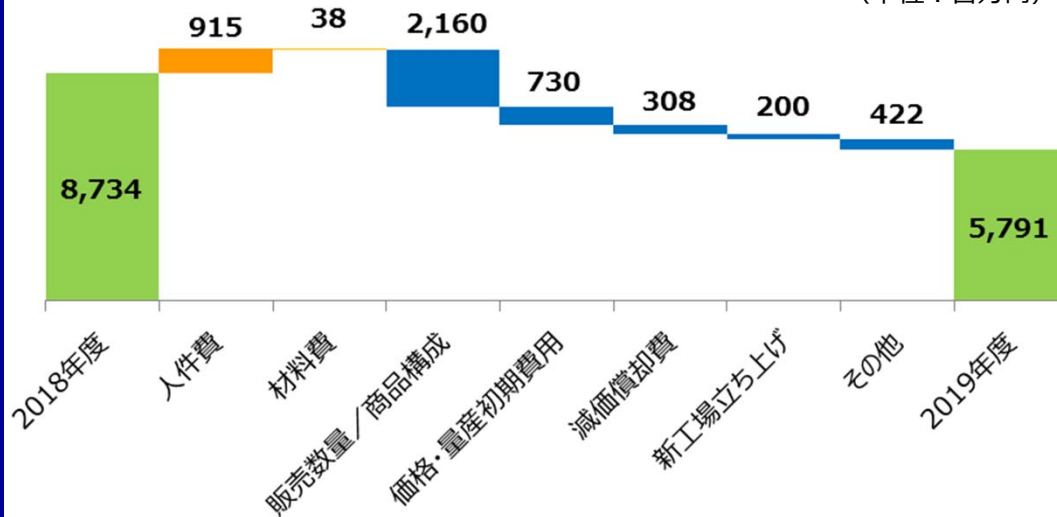


売上高占有率 (所在地別)



〈営業利益の増減要因〉

(単位：百万円)



日本：消費増税等を受け国内販売が減少。海外販売も不振により輸出減少、減収減益。

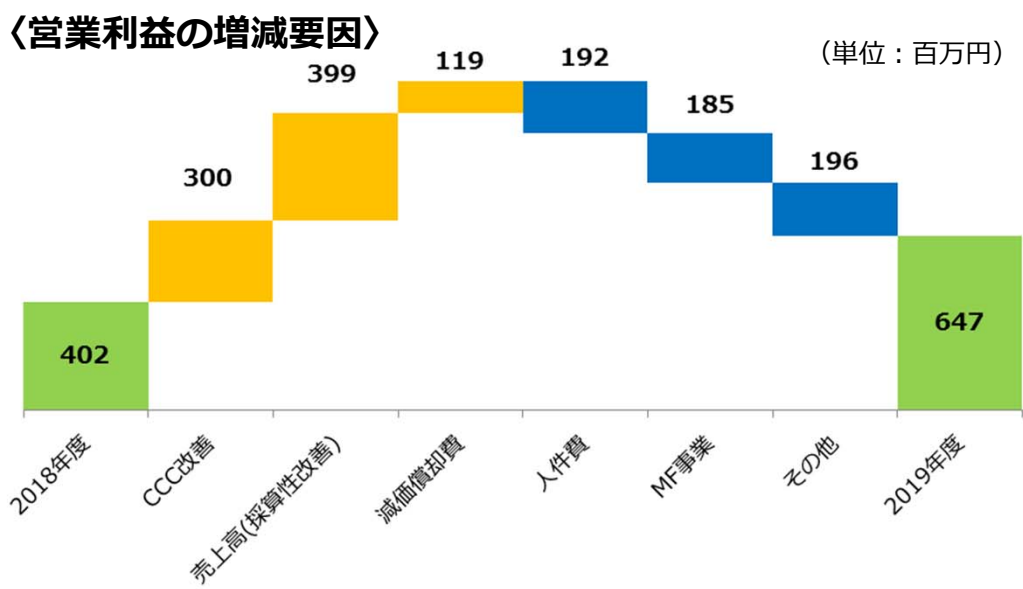
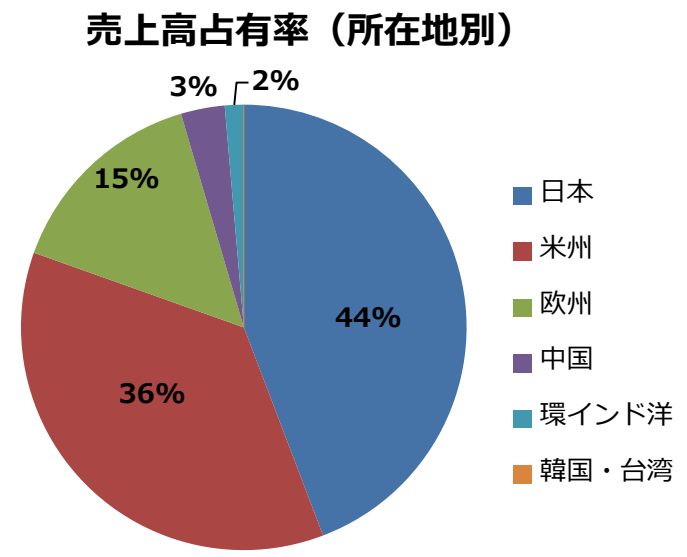
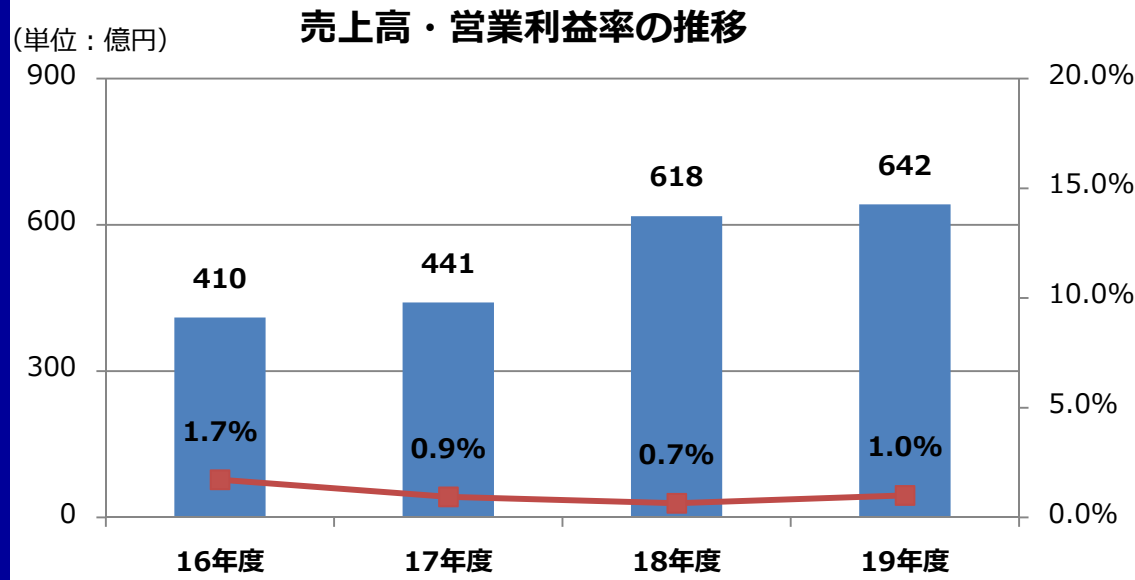
米州：原油安による大型車回帰を受けMIX悪化、減収減益。

中国：販売低調により減収減益。

⇒全体として減収・減益。



# 4. 20年3月期比「1- 事業セグメント別業績」〈マテハン事業〉 8



- ・日本：流通向け自動仕分け機などが好調。その他、子会社の粉粒体搬送設備が好調で増収。
- ・米州：大型案件獲得等により増収、収益性も改善。
- ・欧州：不採算事業整理に伴う費用計上により減収減益。
- ・中国：脱硫脱硝設備向けコンベヤ好調により増収増益。

→全体として増収・増益

# 5. 20年3月期比<sup>1)</sup> 所在地別業績

(単位：百万円)

		2019年3月期	2020年3月期	前期比
		通期実績	通期実績	増減率
米 州	売上高 <sup>※注</sup>	67,462	63,371	▲ 6.1%
	営業利益	2,664	1,719	▲ 35.5%
	営業利益率	3.9%	2.7%	
欧 州	売上高 <sup>※注</sup>	27,779	25,321	▲ 8.8%
	営業利益	395	▲ 77	—
	営業利益率	1.4%	-0.3%	
環インド洋	売上高 <sup>※注</sup>	17,488	16,639	▲ 4.9%
	営業利益	2,837	1,961	▲ 30.9%
	営業利益率	16.2%	11.8%	
中 国	売上高 <sup>※注</sup>	22,946	20,523	▲ 10.6%
	営業利益	1,175	1,069	▲ 9.1%
	営業利益率	5.1%	5.2%	
韓国・台湾	売上高 <sup>※注</sup>	9,440	9,661	2.3%
	営業利益	314	400	27.5%
	営業利益率	3.3%	4.1%	
日 本	売上高 <sup>※注</sup>	127,439	120,621	▲ 5.3%
	営業利益	12,702	9,224	▲ 27.4%
	営業利益率	10.0%	7.6%	

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

<主な実績レート>

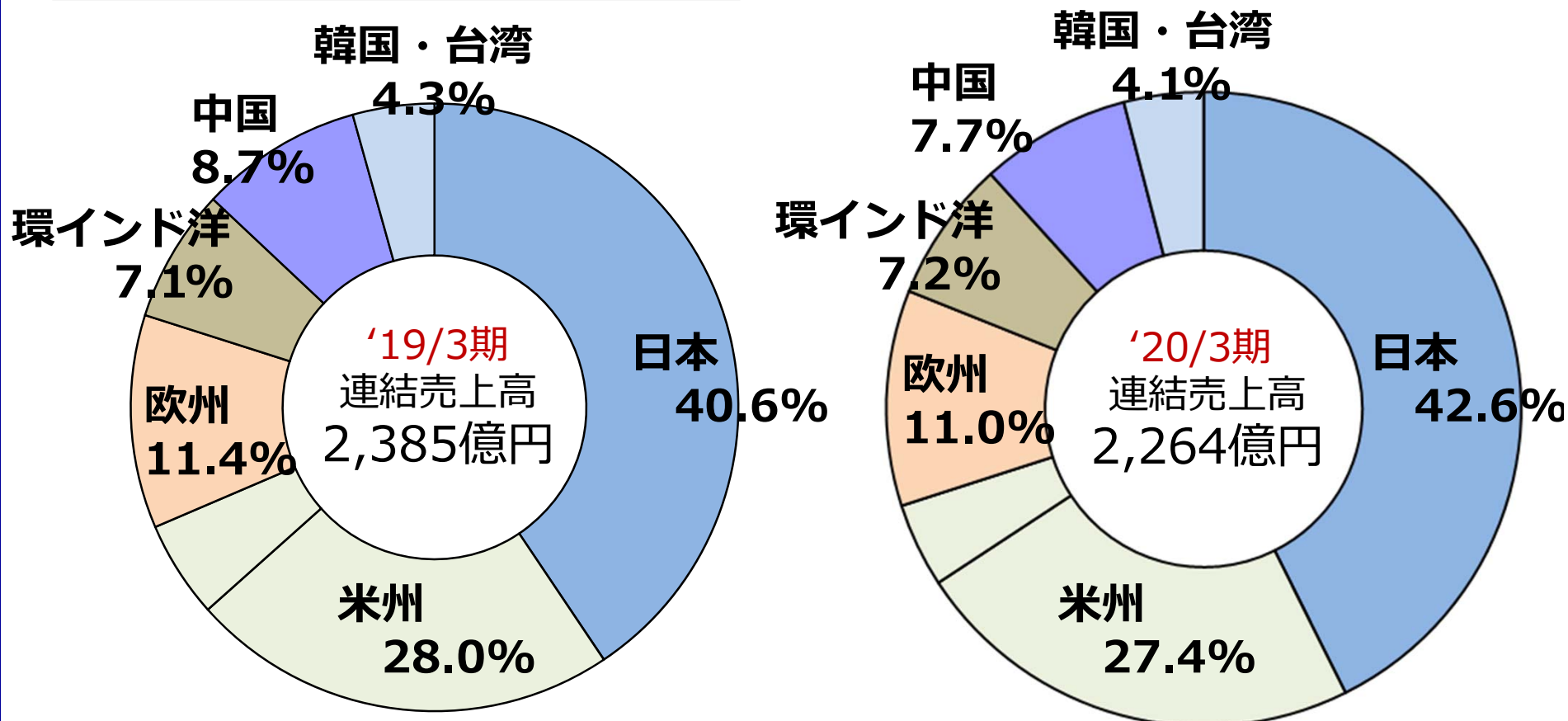
	US\$	EURO	Can\$	A\$	THB	NT\$	RMB	WON	MXN
2018年度	110.93	128.45	84.60	80.97	3.42	3.63	16.70	0.10	5.74
2019年度	108.71	120.81	81.73	74.10	3.52	3.53	15.77	0.09	5.66

## 6. 20年3月期比<sup>①</sup>- 地域別売上高比率

10

2019年3月期  
海外売上高<sup>※</sup>比率：59.4%

2020年3月期  
海外売上高<sup>※</sup>比率：57.4%



※売上高は、顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。

## 7. 20年3月期 設備投資・減価償却費（実績）

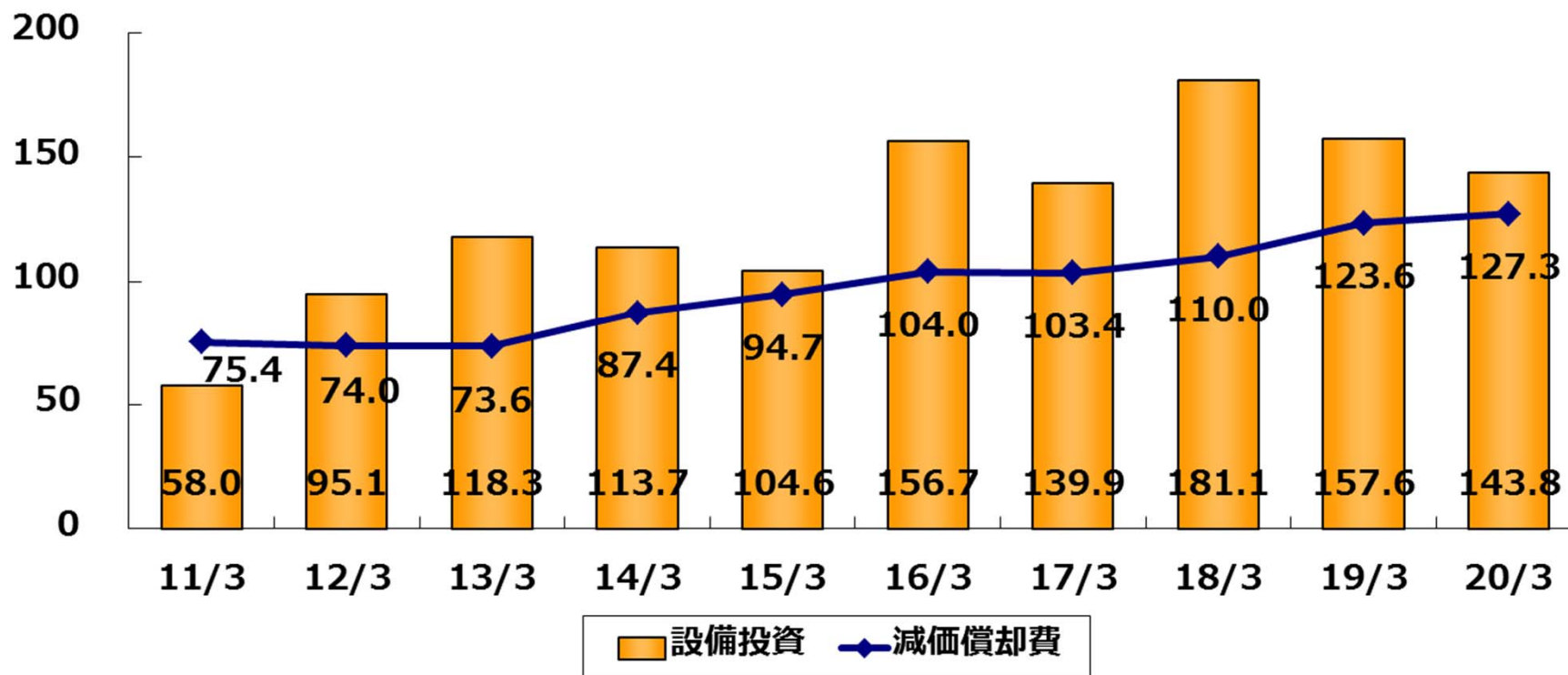
11

### ■ 成長力強化に向けた「資本投入」

- ① 自動車部品事業のグローバル生産体制強化（埼玉、米国ほか）
- ② チェーン事業の生産設備関連（京田辺、米国、ドイツほか）

### < 設備投資と減価償却費の推移 >

（単位：億円）



## 8. 20年3月期 株主還元

12

### ■ 配当方針

- ・ 連結業績を反映した配当を基本方針とし、  
連結配当性向30%を基準とした利益配分を目指す。

< 1株当たり配当金、連結配当性向の推移 >



※1：100周年記念配「2円」を含む ※2：株式併合を考慮しておりません。

新型コロナウイルス感染症の影響は、事業会社の置かれている地域および事業内容により大きく異なり、現時点で合理的な業績の見通しを算定することは困難な状況です。

つきましては、2020年度計画は、合理的な見積りが可能であると判断した段階で、改めて発表させていただきます。

## ■ パワトラ事業（チェーン・精機）

### 【日本】

- ・ 鉄鋼業界、自動車業界で大型投資案件の延期や中止が発生
- ・ 他社製品の供給問題により **当社への転注**あり
- ・ **食品機械、包装機械（薬品含む）の需要増**
- ・ 5G関連が再開、**PC需要増**により半導体機械メーカーが復調

### 【米州】

- ・ 食品、医療向け等、重要産業維持のため  
**米国工場は稼働を継続**

## ■ パワトラ事業（チェーン・精機）

### 【欧州】

- ・ 競合他社が操業停止。  
外部購入品納期問題の中、他社からの置換進む
- ・ 70年以上の英国ブランド使用OEMより引き合い受領

### 【中国】

- ・ コロナ後の経済活動再開により需要回復

### 【環インド洋】

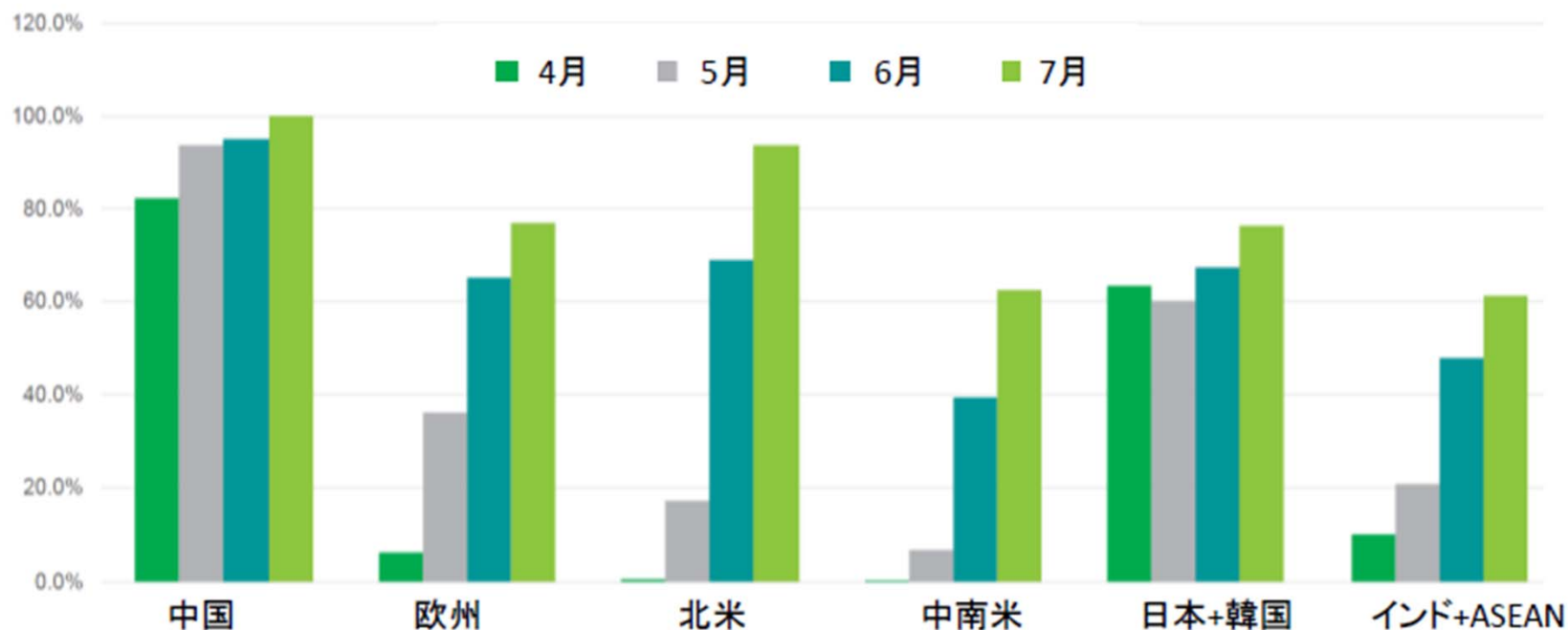
- ・ オセアニア：営業活動自粛の影響あるも、早期回復の見込み
- ・ 東南アジア：長期化するロックダウンの影響大
- ・ インド：二輪向けクラッチがロックダウンに伴い供給停止



## ■ 自動車部品事業

【全般】 全世界の自動車メーカーの操業停止に伴い需要激減。

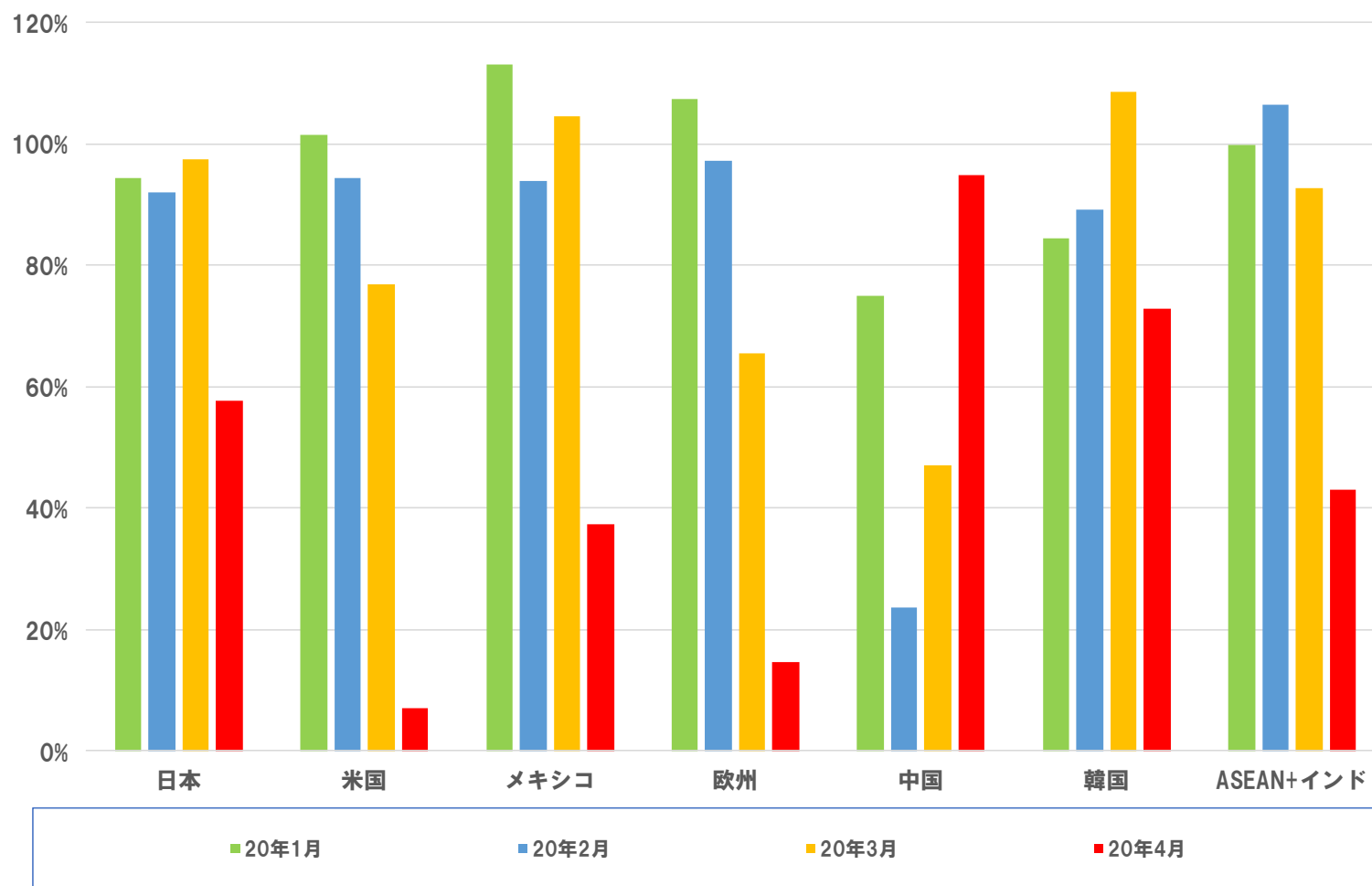
2020年世界LV生産台数予測: 68.4百万台 (前年比 -23%)



(出所) IHS Markit, May 14 “Automotive Webinar COVID 19 Update 7”

## ■ 自動車部品事業

【拠点別月別売上高（2020年1月～4月の推移、2019年月平均=100%とする）】



## ■ マテハン事業

### 【新聞・機器・ライフサイエンス】

- ・ 客先の設備計画に大きな変更なし
- ・ 進行中の大口案件は工事再開 ⇒ 大幅な遅延等は回避
- ・ ライフサイエンス分野では、**コロナ対策案件**が急浮上

### 【自動車】

- ・ メーカーの製造ラインが休止、段階的に稼働を再開
- ・ 保全案件などに関する受注が遅延
- ・ ロックダウンにより、進行中の北米大口案件が停止  
⇒ 現時点では再開

### 【流通】

- ・ 一般家庭向け等、荷物の取り扱い量が大幅に増加  
⇒ **自動化設備導入**検討の問い合わせが増加

本資料に記載している事業計画および業績予想等に関する記述は各資料の作成時点において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。  
実際の業績は、各種要因により、これらの業績予想とは異なる結果になり得ることをご承知おきください。